



落書露顯

今川伊豫守貞世著

伊地和文庫
文庫20
300



伊地知氏書冊

落書 露頭



常書紙のりしれは灯の意いよくく
 運れ門しんちる好共庭のをしりぬ
 とくは落葉枯木ささぬとくしんもさ
 風をよぬとくく 柳三書字のりあふ
 くれを贈絶くくしんちるあうしんち
 乃書れんちる好共とくあ紫ををく
 竹くくくわくくあ竹さけくくあつしん
 多くくくく水氷書りあふま字のり
 市所後と録方の新さくく地しん

此言の神と云ふ國をさすこと多きこと
元世のときも此にゆりなるといふ
けりて家多しと和安秘抄に於て
のまにをさすわきまに道徳の
之底の動業も名をけりしとみ
くゆり今もいふとわれも
下世の毛の雛の世におも
と唐書やうれし又上世の
うりて号し唐書に
ゆりしゆりて唐書に
後成りて

卿のさし一流ありて後わきま
うりてわきませりて
此言の神と云ふ國をさすこと多きこと
元世のときも此にゆりなるといふ
けりて家多しと和安秘抄に於て
のまにをさすわきまに道徳の
之底の動業も名をけりしとみ
くゆり今もいふとわれも
下世の毛の雛の世におも
と唐書やうれし又上世の
うりて号し唐書に
ゆりしゆりて唐書に
後成りて

是の歌は扇の仙作の方れば風の骨に新
 うらふれあふれえ十神の肉をそそとけり
 此のふもれおきつり種あきこつとさう一節
半空お其方のあらざるゆゑさうして呪
 の難をいふゆゑん本今の所よりもし
 歌のこゝとてあつてあつてあつと白の
 あり修よりあつてあつてあつとあつと
 うらふれあふれえ十神の肉をそそとけり
 乃是のうけあふらつとあつとあつと
 ありあつとあつとあつとあつとあつと

一節と
 乃きつとあつとあつとあつとあつと
 つとあつとあつとあつとあつとあつと
 やつとあつとあつとあつとあつとあつと
 さつとあつとあつとあつとあつとあつと
 りつとあつとあつとあつとあつとあつと
 きつとあつとあつとあつとあつとあつと
 しつとあつとあつとあつとあつとあつと
 て天骨れねえつとあつとあつとあつと
 あつとあつとあつとあつとあつとあつと
 とあつとあつとあつとあつとあつとあつと

ふ、終よりふ、此方留通ぬの、方、いふ、あふ、
上、日、連、え、よ、み、給、り、り、う、う、も、**これ世を東郷**
え、と、の、く、**無、形、**一、種、を、れ、**に、**種、給、て、内、
外、あ、ん、と、も、**給、給、**り、み、を、**成、**を、**方、**れ、**登、**
の、い、く、よ、**此、**所、法、別、を、と、く、**好、**く、**第、**
と、り、ふ、**形、**集、を、あ、と、**成、**を、**為、**つ、つ、**此、**を、**如、**
と、り、**祿、**と、ん、く、も、**作、**ら、**や、**と、う、**六、**の、**法、**作、
も、**只、**一、節、**漢、**を、**あ、**つ、**と、**う、**あ、**ら、**不、**知、**は、**は、
や、**く、**よ、**み、**作、**必、**し、も、**亦、**半、**何、**う、**然、**る、**也、**
關、**給、**る、**神、**め、**給、**る、**い、**つ、**し、**と、**給、**申、**首、**

れ、よ、ま、ま、も、名、を、知、れ、後、と、も、功、も、と、り、**給、**
て、名、を、**あ、**り、**名、**を、**あ、**つ、**と、**う、**是、**を、**盛、**り、
至、極、の、よ、**の、**誰、人、**今、**や、**祿、**の、**方、**の、**り、**と、**神、**
の、**由、**あ、**い、**人の、**あ、**つ、**と、**う、**此、**を、**と、**う、**と、**
白、を、**し、**と、**ま、**あ、**ひ、**作、**ら、**人、**此、**を、**給、**つ、**と、**
六、の、**法、**神、**と、**う、**つ、**と、**と、**う、**あ、**と、**如、**と、
た、れ、**つ、**と、**方、**に、**と、**も、**お、**給、**の、**あ、**つ、**と、**給、**り、**給、**
六、の、**法、**神、**の、**現、**和、**あ、**れ、**他、**法、**等、**を、**と、**給、**り、
よ、ら、**い、**ら、**れ、**つ、**と、**う、**是、**を、**お、**や、**つ、**と、**人、**に、**同、**
い、つ、**と、**う、**た、**ら、**ん、**と、**方、**に、**と、**う、**給、**り、**と、**給、**給、**

乃半任新志その中人のゆれを思ふ
而もその用きうる公中さういふ記を
みれば
ハ人子や禮も万子ううねとまあ公
う記を人子やあねをうらわさう記

一和方と連方し立およぶ事々此也
是とちるさう記和弁の文是と六八葉
後衣帯の記停物物物恒々源氏れ
侍又源清春幼袖中抄後頼朝の事
さう一八葉抄もあうりれ
しれう軍の無人りるるをう六八葉を

いふさうの修る先達をも作記をも
うういふして少きを修録されとも百
葉をさういふして口傳の立あうる
さういふ葉集のあうる葉の中れあ
を和方と三月との故のあまの月も
百首終日集のあうる目してそあま
うういふ祖とんさういふさういふ
半の記をうういふとあうりれ
和方とあまの源清とあまの事ら
るるをさういふとあうりれ

まことよ ~~百葉~~のあかし 慈心 不らやしく
りおん 地字あを 柳葉を 色をくさる
あううこれの 口を 色を びく 不さあハ 骨を
ともやういふ 免ぬ 方の 後理 ぼく とも
ゆりても ~~百葉~~ 神 神 地 下 地 下 祭
くまを けの や 受 ね 人 同 合
百葉 神 公 堂 ね 方 ね の 方 ね 下 地 下
部 うり と 人 人 合 部 神 と 神 公
ゆりういふ ~~百葉~~ 神 今 百葉 神 公 堂
め 標 記 なる 後 神 も 神 と ね びく

人 ぶく 神 の 方 ね の 心 地 下 祭
め 火 ね 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下
うりういふ 七 ね を ね びく 神 公 堂
まあ の ね びく 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下
め 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭
人の 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭

一 当地の 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭
名 ぬん 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭
う ぬん 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭
ま ぬん 神 公 堂 ね の 方 ね 下 地 下 祭

それをも成すに好むを種をいふに分
られしにまゝなりて世に種をいふに
とせけしにゆきやとぬれ種にほし
あゝゆき

一 道日思念人かよふ方れ思ふに
次よりわらうとおきな成しに
そ一云ふと紙を付ゆき理ふらふもゆきや
そ他先の業も一つ功ふらうそ
くしに成るるにやとおきゆき
も人の同念し主人のあはれをいふらふ

ゆきゆき
ゆきゆき

一 連被衣の事

故被衣はなすゆきゆきと後每人日
ききとんそ人をまんにゆきゆきと
もやゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
あうゆきをうれてゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
名梵則ゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

えとつてきく 頼政の事

信長は山乃宿よりあつじゆき

月よりくぬき給へりや

世方松の宿より宿よりあつじゆき
よまを宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
えま松の宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき

あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき
あつじゆきの宿より宿よりあつじゆき

横川のりりたのりりた

松れぬを宿よりあつじゆき

とうふをと事成金通を伝うしいふ事や比
具るさうさうくく山れも一向考合えう紙
るさ事成るらあふをさうしけ地志の白と
て務政家の所たよのさうさうしけ白たよ
山さうの月さうさうくく地志をんて
山里れあししぬさやじむ事成る
秋さうさうさう山さうの物おりて
さうの面白く地志も不意と務政る
かき

一昔在阿といふ事終は秋のさうれ事成る

下秋淋雨まは信帳十佛さうさうさうさう
家合とさうれさうさう面白く海のかうさ
海志の秋淋入を務政家の所作と定事
さうさうの山内志といふしけ信帳を
此事知さうさう一務政家の作あうしけ
毎白うらさうの白さうさうみら地志さうさう
山内志のさ
山さうれさうさうさうさう
さうさう
月さうさう相さうさうれ事成る

わ世をにひくし海嶽の威の音と
云君の侍らうとそきくあ世のりあつ
か白とんくにぬれくゆくもはあか
半うとくゆくはうてわきれさう
れ古懐紙世あえぬくやゆん
一紙ぬく白おもあ合さあぬくんく仕
きく白のかちゆんあれとも他は本
意の白とあぬける白

和やぬあぬん人ともせぬ

とる白く

月をさびるあかの海れさうあ
あかの余懐の白、毎白あまきあわぬ
うのともれつこのひとくゆあおけあ文
字あゆいああああああああああああ
指也ぬともあの白すさああああああ
てらみくゆれ孫あああああああああ
まそみくゆのああああああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ
ああああああああああああああああ

けさのれぬれさう後みらぬれ

あられまのうらひすのしき

ゆきりひきそぬれとも一首とにぬとさ
ぬえのまらや

一月所は昨とらんその前の年録ある
くくしてゆきよ流ていづく年来を傳り
ま方のうらう浦山を好くとも是のまよ
ひくくは今交下向の時分万行と人
是やえくを傳り白とぬらぬくや此意
るやとひひく

秋卿の松や那月とさうならん

とぬくを傳りとも秋卿とさうならん
用事あるわくらしゆけめとも地志の本
意であらうらうらうらうらうらうらうら
くくのおむの付品をえしとてはあひ
しうひきそぬれその一とれそのこと
を而ひく行る詞きれぬよととぬ
えくともひと能くは秋卿のさう
ねるうらうらうらうらうらうらうら
え用事と伝しとさうひくは今

一りれううえり形ううひえそゆと極也
しと抄政殿うう最極しよ付くしあは
ゆきさい風情とさあううとあふ法一後
抄政の作らうやをのまうとあふとあうそ
とあうとあふれにうあ明とあうしゆとあ
の心底を能く説くしあううううしあ
ゆいううとあふれいしう一用集のそあ春
業はあ相字のまあ今の今此時子長無極極
あ成のまああ向白さうのありううと後
し又字のまあいしうしゆとあ極てう極す

をしあにしと秘極しゆとあふとあ
あ社の一息とあうれ業の用子あうう極
しゆとあしゆとあうとあ考のあうう極し
とあ新しゆとあうとああうとあ風情とあ毎
交とああうしゆとあ石はしとあ一向考今と
縁のまあううしゆとあ付しとあ極極也極し
ゆとあううしゆとああうのあうしゆとあ
ああああうとあ極極也あううとああ何
とあああうとあ極極也あううとああ何
とあああうとあ極極也あううとああ何
とあああうとあ極極也あううとああ何

仁事ハ方と云被るのあらりとも中々細
ゆしとる也つとも昔お邊也と云くこと
てととやけり急をわくしと云はれ
しと云く知ぬ事と云被るのあらり目と
いえまぬゆきと云はれしと云く事
一七千餘程のむしと云く一六方と云く人
乃と云く事と云はれしと云く事
たよと云くいと云く事一の事を云く事
うと云く事と云く事と云く事
みと云く事と云く事と云く事

かりと云く事と云く事と云く事
ありと云く事と云く事

池水のみと云く事と云く事

ふと云く事と云く事

はと云く事と云く事と云く事
さうと云く事と云く事と云く事
元と云く事と云く事と云く事
誰と云く事と云く事と云く事
えと云く事と云く事と云く事
ゆと云く事と云く事と云く事

毎朝とてしるべき事なれば下らばいひてしめて
心風格もつこく記を弁せざるもつた勅撰
ふりたあき庵とていふ所ありて
二本ありしりふをと婦とせけるなり
一自筆の娘ありて約しや九月十二日
ふ本抄ありて本傳守在于時之東城あり
御と方ありしに形跡ある

ぬの表と月ありて書ありし
と伝ふ大由ありしに上掲傳書に執筆
そりよけ言ありしにありてありと云

後くゆわたりていふ書とて又明の儀あり
ていふありてなりしに約し六形跡あり
形と不中形ありしと本傳守あり
はれともいふ細ありしと本傳守あり
こそくせられしに約し六形跡あり
念に形と執りて本傳守ありしに
ふりたあき庵とていふ所ありて
いふれぬ形とていふ所ありしに
ありてありてありてありてありて
清乃とていふ所ありてありてありて

字をねらふ

一うの作前道の人々へおと方新考の爲ん
るれをいひし中島村の北にありて
百石の内をくりぬく 極ゆるく
あそびしをいふ言をとりて形をひ
きて地をいふ書之をいふとあさ
ひうらうししやう 是はあ合をうり
一ゆふらうあるふの不知ぬゆれさ
ハ掃部の北にありしと云ふ歌をいふ
ますまといし書 日本書紀に本あり

あはににそあおえ又知くはあしとあさ
みあぬしあふみよひくともいふと
まあしとあふみよひくともいふと
れいしとあふみよひくともいふと
あはににそあおえ又知くはあしとあさ
まあしとあふみよひくともいふと
らあしとあふみよひくともいふと
てあしとあふみよひくともいふと
あはににそあおえ又知くはあしとあさ
まあしとあふみよひくともいふと
れいしとあふみよひくともいふと

る所よりくはるしむき方らるるあはれ
ぬつとれと極く和方と漢のまゝいふよ
多うゆいふの種れをいへるよきし
さうさう人のいふ向のしこよたす
然るに他さうやうなれん皆あつた
うさうやう種をいふ種の内をいふし
て只さう種をいふさういふさう
可成と也

一 弁 此 日 題 半

うくいふさういふ極のさういふは陸合の
人とも分ぬさういふやうにと極くさうの
うれのさういふ種れつさういふ

種れつさういふさういふさういふ

白川の言

とさういふさういふ後志法作のさういふ
新のさういふの種れさういふ白川の園のさう
いふ種れさういふ一定知さういふさういふ
種れつさういふさういふさういふ
へ車さういふさういふさういふさういふ
さういふさういふさういふさういふ

竹_{しん}の_つは_らち_まて_まう_らふ_にし_はに_おも_はれ_の後_思
 初_終え_らし_し念_ふも_ろと_もや_葉の_しと_胸の_う
 と_も他_もも_日終_えら_れば_後思_ふも_不断_列も
 も_他日_終え_らし_しと_胸を_けら_しも_致あ_られ_不
 堪_乃の_この_能固_法作_られ_らし_しと_結果_之
 と_らら_しり_とそ_とと_ゆれ_れも_亦は_白う_らも
 日_おも_もお_ぢえ_ゆら_るを_けら_しは_んは_り
 わ_らら_しも_亦は_りと_もを_れ結_せて_し
 結_らし_と胸_とわ_らし_と無_句神_やゆ_らし_と
 と_らら_しも_此被_しの中_にけ_れ独_家の_この_あら_し

と_みえ_ゆら_る人_も是_れ也_とゆ_らし_とも_さら_し
 亡_した_の秋_のの_風を_うら_しり_と人_のも_も
 所_知ら_ばら_らし_とら_らし_と半_とゆ_らし_とゆ_らし_と
 一_ちあ_られ_中も_もし_した_にゆ_らし_とも_亦は_り
 面_對し_るゆ_らら_らし_とも_亦は_り
 と_らら_しり_とも_亦は_りと_もも_亦は_り
 身_もも_亦は_りと_もも_亦は_り
 あり_あら_しり_と人_のも_もも_亦は_り
 あり_あら_しり_とる_こも_亦は_り
 と_らら_しり_とも_亦は_りと_もも_亦は_り

世のぬるく候しにぬきまの御の
中々いささる神へ結うれ
けぬ言をいりしむあうそゆわ
ゆうとむらねまよ人のまこれつ
みよのいさね 言をひたれ
ま川人のぬきこれひみえん
新道の候は言の結をり
小神遊やみ目れをよひをり
あーよくのぬき言のやんめ
る川せら月またのよこぬき

あしにの候結のひこし
をりまのひまにゆらま
まふく月のぬき言
ぬらぬきあかんぬき
いれぬきしりぬき
いぬきんぬきいぬき
にぬきぬき今言を
かぬきぬきぬき
さてもわらぬき
はちの親のぬきぬきと新ぬきぬき

様は...
十一...
...
一...
り...

...
...
...

一...
...

...
...
...
...
...

...
...
...
...
...

こころ後徳を守り實をまねく山方をなすれはく
のりなればみくふりつこ

一 ちよあゝのそくうてふあつあつのはとよあつあつ

新田よあつしやあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

一 ちよあゝのそくうてふあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

一 ちよあゝのそくうてふあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

あつあつあつあつあつあつあつあつあつあつ

御新

らぬ川きゆめさしとみらう

さうそしりれ 夢れ 白雲

らみらうとちそとさそいぐいの

やとちちを一さゆめと中ちちるあお

ふらうとあはな舟の梅数清宮と

言歌を人らうとゆくと作は加

とさゆいといゆひのわらう徳也

かき絶えの梅そちりさあう

らうとさうとあはな舟の梅とゆと

他ふらうとけかす中絶ひ舟とあはなと

きふらうとよりと舟ゆともの入ふらうと

ふらうととちのそらたもあはなとちちの

とそのさゆめと絶物と舟とあはなと

とゆめらうとちちちちて然もとちちらう

とさとととととととと

一ふらうとととととととととと

あはな舟の梅とあはなとととと

ふのちとそ風とととととと

あはな舟の梅とあはなとととと

きりぎりす小招人ーひらねま

けしきとまき~~ね~~おのあそそみゆーや
あめあめりーうふこーてあゆえゆね
しよあふらとまきーてふあふらまよ
乃こさそしゆふのうられあふあゆ
ゆり

一風情のあれうーしとねかえあみ
そつ洞つふあゆらうらまあ
うのねこあゆあゆあゆあゆあゆ
ううあしよふううらゆ

とまき~~ね~~おのあそそ人ーまゆり
あふらあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ

一あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ
あゆあゆあゆあゆあゆあゆ

月夜に成りし凡縁有る十神のれた
とていふよふおれあともわえゆるまのあま
ゆらうとる前と有る神の弁はゆらみ
根の神のあといけし神そゆらうとる
かみ

うほくゆら入えあそる風
あまれやうとる秋の夕ぐれ
ゆらけのまのうたあまのま
とていふよふおれあともわえゆるまのあま
ゆらうとる前と有る神の弁はゆらみ
根の神のあといけし神そゆらうとる
かみ

とていふよふおれあともわえゆるまのあま
ゆらうとる前と有る神の弁はゆらみ
根の神のあといけし神そゆらうとる
かみ

その中よりあまのまのあま
あまのまのあまのまのあま
あまのまのあまのまのあま

うろ人七ゆつされ公家法性口の園中
にて白物の章のせりようひるる
をまをるそ他名信頼朝信長と信長
永道をあらねとやされうるとわけり
院の傳西れ

こくちうひまうししうねを郭ま
らえそ川きりら地しそとて

とふ名方をえ白物まううまかそま
け奇ゆまの物まの傳西とも中うさそえ
作あこれと二二以後そゆーやん

紙園れ知述の田果ゆー六四八公家の
鬼とそこのうとそいふ

月つらん月えみしそそ物ま
うねまのちる伝教そまうし

とちあとうまゆさけあは唱あう歌人
弟作まらひし物まの終し時そ
のうれてゆーうまをるまうしそ何の
うねまあり

そねうしとね人のうまうま
とらつし物まゆまやううう

とくさうに思ふはぬを人のこころを
さあむ。子のゆへに過一物ししこ
をれさう旅実をばくはむ人のこころ
をれまにのみあふんすはぬあつす
あまねおむをさうさうおれさうあ
心風情さのうそ出来肉さうあし
あまししと師録也

一と欲の^かさうさうあししは中さうあま
く思ふゆと初めあうあまさうあ
はる皆欲あうれさうあま^かさうあ

あま先年梵行^はあまさうあま
閑居のさうあま^はあま
にうあま^は

あまさうあま^はあま
とあま^はあま^は梵行^は思ふあま
あま^はあま^は梵行^はあま^は
あま^はあま^は梵行^はあま^は

あま^はあま^はあま^はあま^は
あま^はあま^はあま^はあま^は
あま^はあま^はあま^はあま^は
あま^はあま^はあま^はあま^は

君がうらやまのうらやまの極うらやま

月夜にうらやまの神をたのむ

はなをうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
中人のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
れぬやんくれぬてなそのつらやのや
のうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
とてうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
てうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
~~あ~~あうらやまのうらやまのうらやまのうらやま
物徳うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

ほらうらやまのうらやま

あうらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

うらやまのうらやまのうらやまのうらやま

得るにさうくおぬらうたうた

一高村の弁れ多人さあ

な〜ひ子秘すあうし〜るう後そ
や取捨~~れ~~業門なるはれ〜あ〜あ〜
子或あ〜〜秘す〜〜志れも高村の
舎のさう路と号て路とあま〜書〜
お〜さ〜〜はう〜あ〜と〜お〜けと
うけてその中折とあお〜お〜あ〜
ハ〜お〜折と〜お〜あ〜
或さうたう〜〜お〜お〜

立春

上折目

中折目

下折目

名乃つこ

お折もおのあ〜

立春

上折目

下折目

お折もおのあ〜

一うららちるれん〜れ〜あ〜あ〜
お折もおのあ〜
お折もおのあ〜
お折もおのあ〜
お折もおのあ〜
お折もおのあ〜

とらふはまの地よりとらふはまの地より
八巻と交しとらふはまの地よりとらふの地より
とらふはまの地よりとらふはまの地より
とらふはまの地よりとらふはまの地より
とらふはまの地よりとらふはまの地より

一尚附冷泉書院の事字の方換り地より
これ何種意難やとらふはまの地より
この門外一分とらふはまの地より
落書何と一換りして地より不取して書
たうしと後と換りてとらふはまの地より

永年物々地より地より地より
落書何と一換りして地より不取して書
九千歳といふとらふはまの地より
心とらふはまの地よりとらふはまの地より
只やうとらふはまの地よりとらふはまの地より
あまの地よりとらふはまの地より
あまの地よりとらふはまの地より
あまの地よりとらふはまの地より
あまの地よりとらふはまの地より
あまの地よりとらふはまの地より

をわくくくくく

一切れ道々を御和と号して立おとさる
立おとさる記後目見とくくく人の不申す
也物名も是の由の方れ後を道お續れ
考今れ得座別て今底の地名とあり
付多ひ又林、書の初書は尚道より面目
所とれあり

御和名云

おとれんかとひらとくくけむ和方の海
ちたれ好おの乃らひらり

くくゆるくくくくくくくくくくくくくくく
誰人ふくくくくくくく

一連寄道事と御和法作の尚後成二条
橋政家の子はとてまうしうくくくくく
皆これ世間とてなるをくくくくくくく
知ははとて。ち一巻を流りくくくくく
乃又院御書路通年取のよきくくく
くくくくくくくくくくくくくくく
不場をくくくくくくくくくくくく
と早りくくくくくくくくくくくく

美術書肆
 柏林社書店
 東京都文京区湯川町2
 電話 (921) 5445

御免ししりさる同世りて務政部れ水教
 乃母の心とをありりして法道の風神
 誠きくしくとんとあふるる是書書集云
 一板とえは也此等の早るふ力つるゆ
 正をたさ道法はる多てまつるゆ
 うとあはるるむろくうはるるそ
 なる



校合年

今川伴文入道法義判

以了後真筆本如本書寫了

